

# 知床半島におけるアカアシチョウゲンボウの初観察記録

下村 礼介

株式会社ピッキオ 〒099-4335 北海道斜里郡斜里町ウトロ東284

SHIMOMURA Reisuke: The first sighting record of the Amur Falcon *Falco amurensis* in  
Shiretoko Peninsula, Hokkaido

✉ rayshimomura@gmail.com

The Amur Falcon *Falco amurensis* is a small raptor, which belongs to the family Falconidae. The bird migrates between north-east China/Mongol and the southern Africa, which is the longest migration distance amongst migratory raptors. In Japan, this small raptor is known to be a rare visitor. A certain number of Amur Falcons are observed in October in the northern Kyushu, but there are only three records of the bird in the Okhotsk area of Hokkaido, where an adult male and female birds were observed at different locations on June 5, 2010 and four birds including a second calendar-year male were sighted in June 2011. On May 25, 2020, the author sighted a second calendar-year female at West Utoro, Shari-town. This paper reports the first sighting record of the Amur Falcon in the Shiretoko Peninsula.

**Keywords** amur falcon, migration, sighting, record, Shiretoko

## はじめに

アカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis* はハヤブサ科に分類される小型の猛禽類である。繁殖地である中国北東部やロシアからインドを經由して越冬地のアフリカ南部まで、猛禽類の中では最も長い距離を渡る鳥であるが、日本では稀に見られる旅鳥、もしくは迷鳥として知られる。日本では秋の渡り期(10月頃)に九州北部で一定数が観察されるが(真木ら2014)、北海道オホーツク管内においては、2010年6月5日紋別市渚滑町でオス成長1羽、同年同日、西興部村でメス成長1羽が、さらに2011年6月には浜頓別町でオス第一回夏羽1羽を含む合計4羽が同時に確認されている(下記「周辺地域での観察記録」参照)。2020年5月25日、筆者は斜里町ウトロ西で同種のメス第一回夏羽1羽と遭遇した。知床半島では初の観察例となるため、ここに報告する。

## 観察状況

### 1. 種名

アカアシチョウゲンボウ(英名: Amur Falcon, 学名: *Falco amurensis*), メス第一回夏羽。

### 2. 観察日時・場所

2020年5月25日8時50分頃、国道334号線上の地点(44° 1'53.28"N, 144° 55'46.22"E)で、道路に沿って張られた電線上に確認した。約10分間観察することができた。

### 3. 観察距離

20m-100m。

### 4. 観察環境

観察地点付近の国道334号線は切り立った崖が続く海岸線に沿って造られた道路で、山側には広葉樹を伴った急峻な斜面とその麓にあるイタドリやササ、ススキなどからなる幅3~5mほどの小規模な草地が続いている。天気は晴れであったが、早朝に降っ

た雨が路上に溜まっていた。

## 5. 形態的特徴

頭頂部は褐色で、暗灰色の過眼線及び短いひげ状斑、額から続く白く太い眉斑がある。頬及び顎は白い。翼の雨覆は換羽が完了し暗青灰色で、灰黒色の斑が見られる。風切は擦り切れが見られ退色した褐色である。体下面は白色で、胸部の一部には細かい縦斑、腹部にはハート型の斑が多く見られる。尾羽根は灰黒色の横斑があり、先端部は擦り切れている。翼端は尾端をわずかに超える。嘴の基部(蝟膜)は淡橙色、中央部は灰色、先端は黒色である。眼瞼輪と足は橙褐色である。体の大きさはキジバトほどであった。

## 6. 種の同定

大きさはキジバト大でやや細身の印象であった。頭部から背面、翼にかけて、褐色から暗青灰色で灰黒色の斑があり、白い腹部に細かい縦斑が多く見られることからアカアシチョウゲンボウであると同定した。類似種のチゴハヤブサは、顔のひげ状斑がより長く濃く、また嘴は黄色であり、翼には模様は見られない。この個体は図1に見られるように翼の雨覆は換羽を完了しているが、風切は退色し擦り切れていることや、額から続く白い眉斑が残っていること、脛毛が橙黄色になっていないことから、メスの第一回夏羽の若鳥であると考えられる。オスの場合は第一回夏羽の時点で体上面から尾羽にかけて灰黒色の横斑は殆ど見られず、脛毛から下尾筒は淡赤褐色に変わっているた



図1. アカアシチョウゲンボウ・メス第一回夏羽. 下村礼介撮影

め、メスと判断した。これらの年齢の判別はCorso & Clark (1998) に拠る。

## 7. 観察された行動

8時50分ごろに発見したときは、電線に止まり休息していた。通過していく車両や停車していた筆者の車両および筆者にはあまり警戒を示すような行動は見られなかった。5分ほど観察していると飛び立ち、水のたまった路面近くまで降下し、またすぐに上昇して電線に止まった。給水していたのか、採餌していたのかは不明である。同じ行動を何度か繰り返していたが、道路に沿って南西方向へ少しずつ移動していった。9時ちょうど頃、筆者は都合により観察を切り上げたため、その後の行動や行方は不明である。

## 8. 写真

写真あり(図1)。撮影: 筆者。

## 周辺地域での観察記録

オホーツク管内での観察記録は、迷鳥として2010年6月5日に、紋別市渚滑町川向でオス成鳥が1羽、西興部村中藻でメス成鳥が1羽それぞれ確認されている(日本野鳥の会オホーツク支部。アカアシチョウゲンボウ. 日本野鳥の会オホーツク支部, <http://www.wbsj-okhotsk.org/zukan/akaasichougenbou.htm>, 2020年11月7日閲覧)。2011年6月には道北の浜頓別町でも単日で同時に雄第一回夏羽1羽を含む4羽の目撃がある(中嶋2012)。今回の報告はオホーツク管内では4例目、知床半島では初の記録となる(中川ら2010)。これらを含めた道内の目撃例は付録・表1と図2にまとめた。

## 考察

北海道全域で見ると大半が5月から6月にかけて発見されており、今回の発見も同時期である。アカアシチョウゲンボウは中国北東部などで繁殖を行い、冬には南アフリカまでの14,560kmという世界で一番長い距離を渡る猛禽類として知られている(Meyburg et al. 2017)。今回の発見は、アカアシチョウゲンボウの典型的な生息環境である農耕地や干拓地(真木ら2014)ではなかったため、一時的な滞在で、春の渡り

で繁殖地に向かう途中であったと思われる。しかし同個体は若鳥で、繁殖には参加しない可能性がある。追跡調査で現在判明している春の渡りのルートは、南アフリカからインドを経由し、東南アジアから海岸へ向かうことなく直接中国北東部へ北上するものである (Meyburg et al. 2017)。しかし、日本でも春の観察例は各地にあることから、海岸を通る他のルートも存在すると思われるが、日本への飛来が天候不順などの不規則な原因によるものか、少数が利用する未だ判明していない定期的な渡りのルートによるものであるかは不明であるため、さらなる追跡調査や脚環調査の結果が待たれる。秋の渡りの時期には北海道では目撃例が2件しかない一方、秋の九州北部ではまとまった数の飛来が確認されており (真木ら2014)、アカアシチョウゲンボウの春と秋の渡りのルートが異なることも予想される。

## 謝辞

本報をまとめるに当たり、次の方々にご協力頂いた。種の同定に当たっては、バードリサーチ・植田睦之氏に、北海道各地の記録の記録収集に当たっては、北海道野鳥愛護会・畑正輔氏、富川徹氏、根室市歴史と自然の資料館・外山雅大氏、帯広百年記念館・池田亨嘉氏、日本野鳥の会オホーツク支部・川崎康弘氏にそれぞれご協力いただいた。各氏にここで感謝申し上げる。

## 引用文献

- Corso, A & Clark, WS. 1998. Identification of Amur Falcon. *Birding World* 11: 261-268.
- 藤巻裕蔵. 2012. 北海道鳥類目録 (改訂4版). p.25. 極東鳥類研究会, 美唄.
- 北海道野鳥愛護会広報部. 2007. 鷓川河口で希少3種. *北海道野鳥だより* 147: 10.
- 北海道野鳥愛護会広報部. 2011. 恵庭市でアカアシチョウゲンボウ. *北海道野鳥だより* 165: 10-11.
- 石田卓也. 2014. アカアシチョウゲンボウ雌第一回夏羽. *北海道野鳥だより* 178: 14.
- 小杉和樹. 1991. 利尻島で観察された稀少種の記録. *日鳥学誌* 40: 36-40.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版 日本の野鳥650. pp.458-459. 平凡社, 東京.

Meyburg, B-U, Howey, C & Pretorius, R 2017, 'Year-round satellite tracking of Amur Falcon (*Falco amurensis*) reveals the longest migration of any raptor species across the open sea', paper presented to British Ornithologists' Union Annual Conference, University of Warwick, UK.

中川元・合地信生・松田功・村上隆広・内田暁友. 2010. 鳥類. 内田暁友 (編), データブック知床・2010. p.133. 知床博物館協力会, 斜里.

中嶋友彦. 2012. 枝幸のイヌワシ, 浜頓別のヒメイソヒヨ. *Faura* 36号, p. 31. ナチュラリー, 札幌.

貞國利夫. 2019. 釧路湿原鳥類目録-1935年~2019年の記録-. 釧路市立博物館紀要. 38: 23-80.

高田勝. 1991. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要. 5: 1-19.

浦幌野鳥倶楽部. 2009. 浦幌町類目録 (第2版). p.11. 浦幌野鳥倶楽部, 浦幌.

## 付録

以下に2020年11月現在の北海道内でのアカアシチョウゲンボウの目撃例を表1と図2に纏めた。

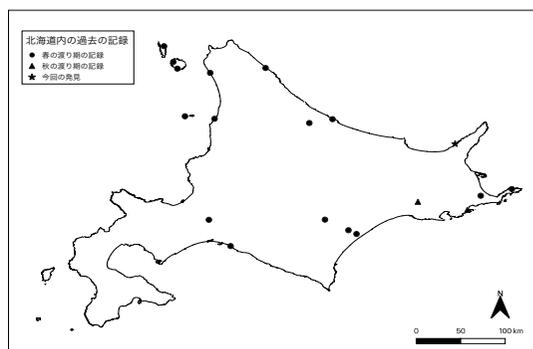


図2. 北海道における過去のアカアシチョウゲンボウの記録.

表 1. 北海道各地のアカアシチョウゲンボウの記録リスト.

	目撃年	月	場所	羽数	性別	年齢	出典
春の渡り	1985	6月2日～13日	根室市檜昔	不明	不明	不明	高田 (1991).
	1988	6月19・20日	利尻島仙法志	1	メス	第一回夏羽	小杉 (1991).
	1991	5月17・18日	浦幌町愛牛	1	オス	第一回夏羽	浦幌野鳥倶楽部 (2009).
	2006	5月上旬	豊頃幌岡 (十勝川流域)	1	メス	成鳥	千嶋淳. 鳥キチ日記. "https://blog.goo.ne.jp/torikichi14/e/131e89c bf6e8cb8ef5dd3745e6688706", 2020年11月11日閲覧. 藤巻 (2012).
	2006	5月12日	利尻島	不明	不明	不明	藤巻 (2012).
	2006	5月23日 ～6月2日頃	鶴川河口汐見地	1	オス	第一回夏羽	北海道野鳥愛護会広報部 (2007).
	2009	6月1日	根室市	不明	不明	不明	藤巻 (2012).
	2010	5月2～4日	礼文島久種湖	1	メス	成鳥	Personal communication, 富川徹氏, 2020年 12月15日.
	2010	6月5日	西興部村中藻	1	メス	成鳥	日本野鳥の会オホーツク支部. アカアシチョウゲンボウ. "http://www.wbsj-okhotsk.org/zukan/ akaasichougenbou.htm", 2020年11月7日閲覧.
	2010	6月5日	紋別市渚滑町川 向	1	オス	成鳥	日本野鳥の会オホーツク支部. アカアシチョウゲンボウ. "http://www.wbsj-okhotsk.org/zukan/ akaasichougenbou.htm", 2020年11月7日閲覧.
	2011	5月22日	恵庭市漁太	1	オス	成鳥	北海道野鳥愛護会広報部 (2011).
	2011	5月24日	天売島	1	メス	不明	北海道海鳥センター. 海鳥日記. "https://seabirds.exblog.jp/16126915/", 2020年11月15日閲覧. (目撃日付は北海道野鳥愛護会広報部 (2011) に拠る.)
	2011	6月5日	羽幌町	1	オス	成鳥	北海道海鳥センター. 海鳥日記. "https://seabirds.exblog.jp/16126915/", 2020年11月15日閲覧.
	2011	6月	浜頓別町	4	オス	第一回夏羽 不明 不明 不明	中嶋 (2012).
2014	5月29日	帯広市西八条北	1	オス	成鳥	Personal communication, 池田亨嘉氏 (帯広百年記念館), 2020年12月15日.	
2014	6月24日	天塩郡豊富町稚 咲内	1	メス	第一回夏羽	石田 (2014).	
2020	5月25日	斜里町ウトロ西	1	メス	第一回夏羽	今回の報告.	
秋の渡り	1994	11月	浜中町	1	不明	幼鳥	千嶋淳. 鳥キチ日記. "https://blog.goo.ne.jp/torikichi14/e/131e89c bf6e8cb8ef5dd3745e6688706", 2020年11月11日閲覧.
	2013	9月10日	鶴居村下久著呂	不明	不明	不明	貞國 (2019).